

## B型肝炎ワクチン(定期接種)についての説明



静岡県立こども病院 予防接種センター

### 1) 病気の説明

#### ○B型肝炎

原因はB型肝炎ウイルスで、血液を介して感染します。感染から発症までの期間は30日から6ヶ月です。通常は急性肝炎の経過を取り、1~2ヶ月の経過で治癒します。時に劇症化して死亡することもあり、油断できません。

お産の時に持続感染患者(キャリア)の母から子に感染することもあります。また、医療機関での針刺し事故で感染することもあります。

### 2) ワクチンの効果

3回の接種で85~90%の方に免疫がつきます。

### 3) ワクチンの特徴

人工的に合成したウイルス蛋白を精製した不活化ワクチンです。

### 4) 接種方法

①接種対象：平成28年4月1日以降に生まれた、1歳未満の児。

(母子感染予防や針刺し事故の場合の感染予防は定期接種の対象に含まれません)

②接種量・回数：0.25mlを3回皮下注射。

③間隔：初回接種後27日以上の間隔をあけて2回目を接種、

1回目接種後139日以上の間隔をあけ(20週後の同じ曜日以降)、3回目を接種。

④接種開始時期に制限はなく、生まれてすぐに接種することもできます。

### 5) 副反応

・副反応の少ないワクチンです。これまでほとんど副反応の報告はありません。

・ヘプタバックスの容器にはラテックスが含まれており、ラテックスアレルギー患者には接種できません。

### 6) 接種後の注意

ワクチン接種後、30分間は院内にとどまり、様子を観察して下さい。接種部位の腫脹、体の発疹、じんましん、気分不良、嘔吐、咳や呼吸困難などの症状が見られたら、直ちに接種した医師か看護師に声をかけて下さい。この間に全く異常が見られなければ、看護師にその旨、一声かけて帰宅して下さい。

### 8) 帰宅後の注意

激しい運動はさけて下さい。その他はいつも通りの生活を送ることができます。入浴もさしつかえありませんが、注射した部位をこすらないで下さい。